

ヒロクチカノコ *Neripteron* sp.

【選定理由】

本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺のワンド状の水たまりや淀みの、泥底上に堆積した朽木や石の下面に付着して生息する事が多い。本種は河川水の影響が強い河口域ではあるが、流れが緩やかな止水的環境を好む。河口域の地形が護岸工事などで単純化され、常に流水にさらされるような環境に改変されると生息できない。また河川水の水量が豊かではなく、著しく富栄養化した河川の河口域では個体数が少ない。県内ではヨシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。現在確認されている生息地は10ヶ所以下である。絶滅の可能性が高い種であると評価された。

【形態】

殻径約20mmの半球形平巻きで螺塔が現れない。名前の通り殻口は広がる。蓋は半円形で、石灰質。南西諸島には近似種が数種存在するが、本種はそれらとは殻形態からも明らかに別種である。学名は確定していない。



上段: 名古屋市庄内川河口, 2008年7月13日, 下段: 西尾市矢作川河口, 2009年7月15日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在10ヶ所以下である。庄内川、矢作川河口域では健全な個体群が残っているが、他の生息場所では個体数が非常に少ない。県内では最も広大で内湾性貝類の多様性の高い汐川干潟でも本種の個体数は著しく少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸、国内では東京湾・山口県北長門海岸以南～九州に分布する(福田・木村, 2012)。東京湾、三浦半島では絶滅(千葉県, 2000; 葉山しおさい博物館, 2001)し、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海には健全な個体群が存在する。南西諸島以南の太平洋、インド洋に広く分布する近似種とは別種。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したように、ヨシ原湿地周辺の塩沼やヨシ原内の水たまりなど、直接河川水の当たらない淀んだ泥干潟を好む。泥上にも生息するが、朽ち木や転石があればその下面に集まる。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

県内は分布の東限になっている。千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では相模湾の個体群が消滅にランクされている。

【引用文献】

- 福田 宏・木村昭一, 2012. ヒロクチカノコ, p. 20. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
水産資源保護協会, 1996. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(Ⅲ), 90pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

(木村昭一)